



東京芸術祭ファーム2022 クリエイティブインターン 参加者募集

[応募締切 2022年7月7日(木)17:00 (日本標準時)]

“トランスフィールド”を経験し、国際的な活動への第一歩を踏み出す

「クリエイティブインターン」は、日本拠点の舞台芸術に携わる若手アーティストが、国際的な創造現場の経験を積むプログラムです。東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」のオンライン稽古、滞在制作、成果発表（一般公開）のリハーサルおよび本番のサポートを通じて、参加者自身が国際的な活動に踏み出すための基礎をつくることを目指します。

国際的な活動に挑戦したい舞台芸術の分野で活動するアーティスト、クリエイターを対象に参加者を公募します。
(実施言語：日本語 / 参加無料)

▶こんな方にオススメ

- 国際的なフィールドへの第一歩を踏み出したい方
- 国際的なクリエイションの知見を獲得したい方
- アジアをフィールドに活動するアーティストと出会いたい方

▶オンライン説明会実施

6月8日(水) 20:00～

- 東京芸術祭YouTubeチャンネルにてライブ配信
- 詳細は東京芸術祭Webサイト (https://tokyo-festival.jp/tf_farm) にてご確認ください

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
協賛：アサヒグループジャパン株式会社



実施概要

■ 活動内容

- 東京芸術祭ファーム2022 Farm-Lab Exhibition のチームにクリエイティブインターンとして参加します。
※下記①②のいずれかのチームに配属、具体的な担当内容は相談の上、決定します。
※各プログラムについては【別紙】を確認してください。

担当チーム	クリエイティブインターンの活動内容
チーム① セリーナ・マギリュー 演出作品	国際コラボレーション作品の創作のサポートを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ● クリエーションのテーマやプロセスに寄与する情報のリサーチ、提供 ● ディスカッションへの参加、記録作業 ● 滞在制作期間中の稽古場での創作補助（映像撮影、補足資料の作成 等） ● 成果発表会場の運営補助 ほか ※業務を実施した日は活動報告として、日報を提出。
チーム② y/n（橋本清+山崎健太） 演出作品	

- 上記活動のほか、以下のような研修や交流の機会があります。
 - オリエンテーション、ラップアップ
 - 東京芸術祭ファームディレクターとのミーティング（活動内容についてのフィードバック、相談 等）
 - 東京芸術祭ファーム プログラム共通で実施する活動（全体顔合わせ、研修、交流会 等）
 - 東京芸術祭2022のプログラムの鑑賞機会
- 活動期間の終了後、最終レポートを執筆、提出します（東京芸術祭Webサイトにて一般公開予定）。

■ 実施言語

日本語（各プログラムの現場や交流会等でのコミュニケーションでは、英語を用いる場面もあります）

■ 実施日程

活動期間：2022年7月28日(木)～10月25日(火)

● クリエイティブインターン 活動日程

内容	日程	実施会場
個別事前面談	7月26日(火)、27日(水)の内30分程度 ※日時は、参加者と相談の上、決定	オンライン (Zoom)
オリエンテーション	7月28日(木) 16:30～18:30	
各担当チームでの活動	チーム①②のいずれかの活動日程（【別紙】参照）で活動。 ※参加チームは、個別事前面談でお知らせします。	
東京芸術祭ファームディレクターとのミーティング	9月上旬～中旬で参加者と調整	オンライン (Zoom)
レポート提出締切	10月20日(木)	—
ラップアップ	10月25日(火) 14:00-16:00	オンライン (Zoom)

※上記、活動日程以外も、随時、Slack等で情報交換を実施します。

● 東京芸術祭ファーム2022 プログラム共通 活動日程

共通レクチャー 顔合わせ、交流会 等 ※詳細はオリエンテーションにて お知らせします。	8月2日(火) 19:00～21:00 8月4日(木) 19:00～21:00 8月8日(月) 19:00～21:00 8月17日(水) 18:30～21:00 8月22日(月) 18:00～20:00 8月29日(月) 時間未定 9月2日(金) 時間未定 10月16日(日) 時間未定	オンライン
--	--	-------

※上記の他、東京芸術祭のプログラムの鑑賞日程等については、参加者に後日案内します。

■ 活動場所

- オンライン（使用ツール：Zoom 等）
- 水天宮ピット（東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」より徒歩2分）
- 東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト（「池袋駅」西口より徒歩2分）

※活動内容によって、上記以外の場所で実施する場合があります。

※居住地等の都合でオンラインでの活動のみを希望する場合は、応募時に連絡事項として記入してください。

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン」（https://tokyo-festival.jp/tf_farm）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

募集概要

■ 応募資格

次の1～9のすべてにあてはまる方

1. 日本を拠点に活動しており、今後、国際的に活動していきたい
2. 舞台芸術作品やプロジェクトにおいて創作上重要な役割を果たしている（演出家、俳優、振付家、ダンサー、ドラマトウルク、セノグラファー 等）
3. Farm-Lab Exhibitionのクリエイションチームをはじめとした関係者や、作品に対してリスペクトを持って参加できる
4. 原則18歳から35歳まで（高校生不可）
5. 東京芸術祭ファームの広報およびPRに協力することができる
6. 原則、実施日程(p. 2)に掲載のスケジュールに全日参加が可能な方（別紙も参照）
※活動ができない日程がある場合は、応募時に期間を明記してください。
7. 都内の稽古場・劇場（p. 2 活動場所参照）に通うことができる
8. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、Google Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
9. 積極的に他の参加者等とコミュニケーションをとり、主体的に参加する意思がある

■ 参加費

無料

■ サポート

- 国際的な現場でのコミュニケーションのサポート
 - 通訳（日⇄英）※Farm-Lab Exhibitionの創作現場でのやり取り、共通レクチャー等の一部活動が対象
 - コミュニケーションデザインチームによる多文化間コミュニケーションについてのレクチャー
- 交通費支給（1日あたり上限1,000円）
- 保険加入（費用は主催者が負担）

■ 募集人数

最大4名

■ 選考スケジュール

応募受付	応募締切：2022年7月7日(木) 17:00 オンラインのフォームにて受付
一次審査：書類審査	2022年7月13日(水)までにメールにて一次選考の可否を通知
二次審査：オンライン面接 (使用ツール：Zoomを予定)	選考実施日：2022年7月16日(土)9:00～12:00 18日(月・祝)10:00～13:00
参加者決定	2022年7月21日(木)頃までにメールにて最終可否を通知

※可否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ず、Farm-Lab オフィスからのメール（farm@tokyo-festival.jp）が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム <https://form.run/@ci2022>

<必要事項>

1. 氏名もしくはアーティスト名
 - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he、she、they、名前 等 / 自由記述)
2. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
3. 生年月日
4. メールアドレス
5. 連絡先住所
6. 日中連絡のつく電話番号
7. 職業 (所属 等)
8. アーティストプロフィール (400字以内)
9. ウェブサイト (あれば)
10. これまで関わった作品のYouTube、Vimeo等の動画リンク (あれば) 及びその作品における自身の役割
※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
11. 応募動機、自己PR (600字以内)
12. 国際的なフィールドに自身がステップアップするためにFarm-Lab Exhibitionの現場で学びたいこと、将来へ活かすビジョン (1000字以内)
13. 創作や公演、留学、海外旅行などの国際的な経験 (あれば)
14. 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
 - a. 簡単な自己紹介ができる
 - b. ある程度準備しておけば、自身の活動を説明することができる
 - c. 自身の専門分野において、議論のなかで考えや意見を述べることができる
 - 上記の回答に関する補足 (自由記述 / あれば)
15. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p. 3)を確認してください。
16. 参加に際して使用するネットワーク環境
17. 二次選考期間 (7月16日(土)9:00-12:00 18日(月・祝)14:00-16:30) の内、面接に参加できない日時 (あれば)
18. 実施日程 (p. 2 および【別紙】参照) の内、参加ができない日程や活動ができない期間 (あれば)
19. 東京芸術祭ファームの他プログラムで応募を予定している、または応募済みのもの (あれば)
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
20. 応募にあたっての連絡事項など

■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問い合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL : farm@tokyo-festival.jp TEL : 03-4213-4293 (平日10時~19時)

※記載の情報は2022(令和4)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

【別紙】**活動期間中に担当するプログラムについて**

活動期間中は、東京芸術祭ファーム2022 Farm-Lab Exhibitionの以下①②いずれかのクリエイションチームにご参加いただけます。担当チームは、参加決定後東京芸術祭ファームディレクターと協議の上決定します。実際の活動日程は各参加者と調整し決定いたします。

チーム① セリーナ・マギリユー 演出作品

マニラ（フィリピン）を拠点に活動するセリーナ・マギリユーが、「QUEER ASIA（クィア・アジア）」をコンセプトに、公募により決定した日本在住の出演者3名とパフォーマンス作品の創作トライアルを行います。

チーム② y/n（橋本清+山崎健太）演出作品

演出家・俳優 橋本清と批評家・ドラマトウルク 山崎健太による東京拠点のユニットy/nが、「教育」をテーマに、公募により決定した海外在住の出演者3名とパフォーマンス作品の創作トライアルを行います。

各チームの詳細は、以下より、出演者公募の募集要項もあわせてご参照ください。

https://tokyo-festival.jp/tf_farm

【稽古・本番等日程】

活動内容		日程	実施会場
顔合わせ		8月4日(木)16:00~18:00	オンライン (使用ツール:Zoom)
オンライン稽古	チーム① セリーナ・マギリユー 演出作品	8月17日(水)14:00~17:00 8月24日(水)14:00~17:00 8月31日(水)14:00~17:00 9月7日(水)14:00~17:00 9月14日(水)13:00~16:00 9月21日(水)13:00~16:00	
	チーム② y/n（橋本清+山崎健太） 演出作品	8月9日(火)時間未定 8月12日(金)時間未定 8月18日(木)時間未定 9月6日(火)時間未定 9月13日(火)時間未定 9月20日(火)時間未定	
滞在制作		9月26日(月)~10月3日(月) 時間未定	水天宮ピット（東京）
パフォーマンス試作発表（一般公開） リハーサル、本番		10月4日(火)~10月9日(日) 時間未定	東京芸術劇場 アトリエイースト アトリエウエスト
ラップアップ / 修了式		10月10日(月・祝) 時間未定	東京芸術劇場 アトリエイースト アトリエウエスト

※クリエイティブインターンは、稽古・本番等の前後の時間にも業務を行っていただく場合がありますので予めご了承ください。

※記載の情報は2022(令和4)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

「都市≠集い」

2022年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市=集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでの様々な協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む2020年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022年6月
東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの2年半に及ぶ行動様式と価値観の根底的な「洗い直し」でより明確になったのだと思います。

この2年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要はあるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022年6月
東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確



コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング*を防ぐため、昨年からの募集要項には自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要なコミュニケーションのあり方を探っていきます。

■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーで様々なプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら https://tokyo-festival.jp/tf_farm